学校番号	３０３６

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「倫理」　（数研出版）						
副教材等	詳解倫理資料　新訂版（実教出版） 2023 年入試ベストセレクション大学入学共通テスト倫理重要問題集（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・思想家の思考の過程をたどり、具体的な事例とともに理解すること。
・それぞれの思想の本質を捉えること。

2　学習の到達目標

・青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせる。
・人格の形成に努める実践的意欲を高め，他者と共に生きる主体としての自己の確立を促す。
・良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め，意欲的に課題を追究するとともに，平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加，協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見いだし，社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し，社会の変化や様々な考え方を踏まえ，公正に判断して，その過程や結果を適切に表現している。	現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用している。	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し，その知識を身に付けている。
評価方法	提出物　等	定期考査 提出物　　等	定期考査 提出物　　等	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	第1編　現代に生きる自己の課題	1　人間とは何か		○		○	b:何をもって人間というのかを考えることができる d:人間の多様性・多義性が理解できる。	定期考査 提出物　等
		2　青年期の意義と課題	○	○		○	a: 自分を含めた青年が、どのような世代的特徴を持っているのか考えることができる b:　青年期の現状と将来を見通しながら、青年はどのような課題を負っているのかを考えることができる d:　青年期の身体的・社会的・心理的な特徴と意義を理解することができる	定期考査 提出物　等
		3　自我の発見と自己形成	○	○	○	○	a b:　大人になるということの意味について考え、自立した社会人となるための意欲が持てるようになる c:　自分の性格や能力などについて考察し、それを文章に表現したり、発表したりすることができる d: アイデンティティの意味が理解できる	定期考査 提出物　等
		4　パーソナリティの形成と生きがい	○	○		○	ab: 自己実現と生きがいの関わりを認識し、他者とともに生きることの大切さを理解することができる d:　個性化と社会化の意味を理解し、それぞれの実現をはかることができる	定期考査 提出物　等
		第２編　人間としての自覚						
前期	第1章　西洋思想の源流	第１節 古代ギリシアの思想	○	○		○	a:哲学とは何を探求する学問なのかという関心と興味を持つことができる b:　神話が人間に対して持つ意味と哲学が誕生してきた背景を考えられる。 d:　ソクラテス・プラトン・アリストテレスなどの思想家が求めた人間観・国家観・倫理観について、全体的な理解ができる	定期考査 提出物　等
		第２節 キリスト教		○		○	b:　宗教が人間に対して持つ意味について考察するとともに、自分なりの意見を表明できるようになる。 d:ユダヤ教の歴史とキリスト教の成立の背景とその宗教的な特徴が理解できる	定期考査 提出物　等

		第３節 イスラーム	○		○	○	a:現代イスラームの実情について関心を持つ。 c:現代イスラームの実情について調べてみることができる。 d:イスラーム成立の歴史的背景が理解できる。	定期考査 提出物　等
	第２章　東洋思想の源流	第１節 古代インドの思想と仏教	○	○	○	○	a:　日常生活の仏事を振り返って仏教への関心を抱く。 b:　ウパニシャッド哲学の梵我一如の思想の意味について考えることができる c:　現代における仏教の意義について考え、文章にまとめることができる。 d:　バラモン教成立の背景を理解し、ブッダの思想(四聖諦と慈悲)が理解でき、上座部仏教と大乗仏教の相違が理解できる	定期考査 提出物　等
		第２節 中国の思想	○	○	○	○	a:　中国の思想について関心を持つ。 b:　道家の思想が現代に持つ意味を考察する。 c:　日本社会にある儒教文化について調べ、 d:　諸子百家出現の背景が理解できる。道家の思想内容(道や無為自然)が理解できる。	定期考査 提出物　等
		第３編　現代に生きる人間の倫理						
前期	第１章　西洋近代の思想	第１節 理性への信頼と人間の尊厳	○			○	a:　「近代的」という言葉の意味を考える。 d:　ルネサンスと宗教改革がヨーロッパの近代化に持った意義が理解できる。	定期考査 提出物　等
		第２節 自然・科学技術と人間	○	○		○	a:　現代の科学・技術と人間生活との関わりに興味と関心を持つ。 b:　科学的思考の意味について考えることができる。 d:　近代科学の先駆者の功績について理解し、デカルト・ベーコンの思想を理解する。	定期考査 提出物　等
		第３節 個人・社会と自由	○	○	○	○	a:　法と道徳、家族と社会と国家の関係について関心を持つ。 b:　自由について考え、自分の意見を発表することができる。 c:　「民主的」という言葉がどのような使われ方をしているのかについて調べ、発表できる。 d:ホッブズ・ロック・ルソーの思想、カントの認識論・道徳論、ヘーゲルの弁証法や倫理学の理解できる。	定期考査 提出物　等

		第４節 民主社会の倫理		○		○	b: ベンサム・J.S.ミルの思想を通して、幸福の問題について考えることができる。プラグマティズムの思想が持つ民主主義や教育に果たした意義について考察することができる d: ベンサム・J.S.ミルの思想を理解し、プラグマティズムの思想的特徴を理解し、空想的社会主義と科学的社会主義、およびマルクス以降の社会主義思想を理解する。	定期考査 提出物 等
後期	第2章 現代の思想	第１節 現代思想の流れ	○	○		○	a:レヴィナス・アーレント・ハーバーマスの思想を通して、現代において他者の持つ意味や相互的・共同的な営みにおいて理性が持つ役割を問い直すことができる b: 合理的思考ということについて、その意味と限界について考えることができる。 d: キルケゴール・ニーチェ・ヤスパース・ハイデッガー・サルトルの各思想を理解し、フロイトやユングを理解し、構造主義やフランクフルト学派などを理解することができる。	定期考査 提出物 等
		第２節 現代社会と生き方	○	○	○	○	a: 先人の努力によって獲得された自由が、現代社会においてどのように捉えられ、変質しているのかに関心を持つ。 b:現代におけるヒューマニズムの意義について考えることができる。 c: 社会参加あるいはボランティア活動について、自分の意見を発表できる。 d: フロム・ウェーバー・リースマンの思想・ガンディーやシュヴァイツアーの思想や活動を理解し、キングやサイードの思想から、差別が生まれ出る心のメカニズムを学ぶことができる。	定期考査 提出物 等
		第４編　国際社会に生きる日本人としての自覚						
後期	第１章 日本の伝	第１節 日本の風土と古代日本人の考え方		○	○	○	b: 清めや祓ひなどの古代以来の日本的罪観念について、現代と比較して考察できる。 c: 日本の気候・地形・植生などの風土について調べ、発表することができる。 d: 記紀神話に記された死生観・道徳観などが理解できる。	定期考査 提出物 等

		2節 仏教の受容と展開	○	○	○	○	a:日本仏教の宗派について関心を持つ。古典や芸能などの中に見られる仏教思想の影響に気づくことができる。 b:聖徳太子による仏教の日本定着の意義を考えることができる。 c: 日本仏教の宗派がどのような特徴を持っているのかを発表できる。 d: 空海と最澄の思想の相違が理解できる。末法思想と鎌倉新仏教との関連が理解できる。浄土系仏教と禅宗系仏教および日蓮宗の各特徴が理解できる。	定期考査 提出物 等
		第3節 儒学の受容と国学の発達		○	○	○	b:日本人の思考傾向の中にある儒教的なものについて考えてみることができる。 c: 日常生活の中に見られる儒教的な儀礼について調べ、意見を述べることができる。 d: 日本朱子学と日本陽明学の相違、および古学派の主張が理解できる。国学の思想系譜と思想内容、および神道思想についての理解ができている。民衆の思想、および洋学の思想的特徴とその時代背景が理解できる。	定期考査 提出物 等
	第2章 西洋思想の受容と近現代の日本の思想	第1節 近現代の日本の思想	○	○		○	a:欧米化された現代日本社会の現状を振り返り、明治以降の日本の歩みに関心を抱くことができる。 b:明治維新の持つ意味について考察できる。 d:啓蒙思想・キリスト教思想・伝統思想などについて、思想的特徴および思想的意義について理解できる。近代文学、大正デモクラシー、近代日本哲学などの内容を理解する。	定期考査 提出物 等
		第2節 国際社会を生きる日本人			○	○	c:現代の国際社会の中で、日本がどのような役割を果たしているのかを調べ、発表することができる d:グローバリゼーションとナショナリズムとの関連を理解し、今後の日本のあり方について考えてみることができる。	定期考査 提出物 等
後期	第5編 現代の諸課題と倫理	第1節 生命倫理（バイオエシックス）	○	○		○	a: 現代の生命科学や医療技術の状況に関心を持つ。 b:生命科学や医療技術の状況について考えることができる。 d: 生命の誕生・延命治療・終末医療などの現状を認識し、それぞれが抱える倫理的課題について考えることができる。	定期考査 提出物 等

		第２節 現代の環境問題			○	○	c:現代の環境問題について調べ、現状と課題について発表することができる。 d:環境問題の実態と現状を認識した上で、環境倫理の主張する内容を理解できる。	定期考査 提出物　等
		第３節 家族のあり方		○	○	○	b:現代家族の課題について考えることができる c:高齢問題や男女共同参画社会について調べ、意見発表ができる d:　家族形態や機能の変化について理解する。	定期考査 提出物　等
		第４節 地域社会とのかかわり				○	d:　地域社会が変化しつつある中で、家族と国家の中間的な位置にある地域が我々に持つ意義を理解することができる。	定期考査 提出物　等
		第５節 情報社会の功罪	○			○	a:情報化社会の課題に対する関心を持つ。 d:情報化の進展について考察し、情報公開制度や情報リテラシーなどの育成など、情報化社会の課題に対する認識が持てるようになる、	定期考査 提出物　等
		第６節 さまざまな文化・宗教への理解			○	○	c:　グローバリゼーションがもたらす文化上の問題点について考察・発表することができる。 d:　多文化主義や文化相対主義の意味を理解し、自民族中心主義の克服について考えることができる。	定期考査 提出物　等
		第７節 国際平和と人類の福祉		○		○	b:　現代の福祉の方向について考えることができる。 d:ロールズやセンの考え方を理解し、人類福祉の意味と差別の構造について理解できる。	定期考査 提出物　等

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。